

## 鉄道総研は持続可能な開発目標（SDGs）の取組をスタートします

2020年6月11日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、「持続可能な開発目標（SDGs）」の取組をスタートしましたので、お知らせいたします。

### 1. 目的

鉄道総研のビジョンを実現する実行計画としての基本計画 RESEARCH 2025 に基づく活動を通して、SDGs に掲げられた 17 の目標について、鉄道総研の強みを活かせる「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」を主体に、9 つの目標の実現に寄与し、研究機関としてのプレゼンスを向上することを目的とします。

### 2. 取組の内容

地球環境問題や高齢化に伴う社会的負担の増加、経済の地域間格差など、社会が直面している諸課題を克服するには、抜本的な技術革新が必要不可欠です。鉄道総研は、鉄道の技術革新の担い手及び先導役としての役割を果たし、鉄道事業者や国内外の大学・研究機関、関連企業等と連携して、鉄道が直面する困難な課題を克服し、持続可能な社会の実現に向け、鉄道の未来を創る研究開発に邁進します。

鉄道総研は、「基本計画－鉄道の未来を創る研究開発－ RESEARCH 2025」に基づく活動を通して、SDGs に掲げられた 17 の目標について、鉄道総研の強みが活かせる「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」を主体に「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「8 働きがいも経済成長も」など、9 つの目標の実現に取り組みます（図 1）。基本計画 RESEARCH 2025 における SDGs の具体的な取組を表 1 に示します。

鉄道総研の研究開発活動等が SDGs 達成に寄与することを（図 2）、定期刊行物やホームページなどにおいて積極的に発信していきます。

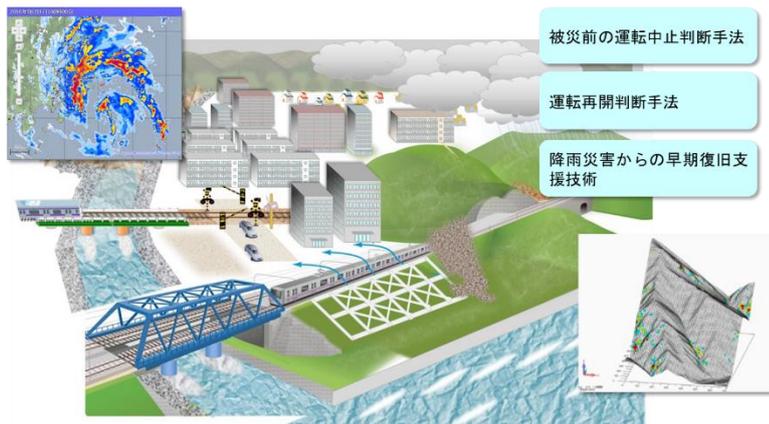


図 1 鉄道総研が取り組む SDGs の 9 つの目標

表1 基本計画 RESEARCH 2025 におけるSDGsの具体的な取組

基本計画 RESEARCH 2025 の活動	具体的な取組	目標 SDGs
<b>1. 研究開発事業</b> ・ 安全性の向上、特に自然災害に対する強靱化  ・ デジタル技術による鉄道システムの革新  ・ 総合力を発揮した高い品質の成果の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道の更なる安全・安定輸送に資する研究開発の重点的な実施</li> <li>地上・車両設備の故障防止及び老朽化に対応する研究開発の積極的な実施</li> <li>災害や事故の被害・原因調査及び復旧方法・再発防止対策の提案</li> <li>鉄道現場での労働力不足等の課題に対応した省力化技術に関する研究開発の重点的な実施</li> <li>沿線環境に適合した新幹線の高速化</li> <li>鉄道の更なる省エネルギー化</li> <li>MaaSなど新たな顧客サービスの創出に寄与する取組の積極的な実施</li> <li>鉄道の将来に向けた研究開発、鉄道事業に即効性のある実用的な技術開発及び鉄道固有の現象解明などの基礎研究の推進</li> <li>シミュレーション技術の高度化及び独創的な試験研究設備の整備</li> <li>鉄道技術に関わるノウハウの蓄積や人材育成</li> <li>鉄道の諸課題解決への分野横断的な取組</li> </ul>	    
<b>2. 調査事業</b> ・ 社会・経済・技術の変化を把握し、研究開発に活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道に関わる安全・環境・交通経済等の国内外の中長期的な動向や先端技術の動向等の情報を収集・分析</li> <li>鉄道の将来像を予測し、研究開発を行う技術項目の抽出</li> </ul>	
<b>3. 技術基準事業</b> ・ 施工や維持管理の効率化などの観点を反映した設計の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働力の減少を見据えた設計標準、維持管理標準及び設計計算例などの整備を計画的に推進</li> </ul>	
<b>4. 情報サービス事業</b> ・ 時宜にかなった的確な鉄道技術情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の鉄道技術情報を収集・蓄積、発信</li> <li>多様な媒体を活用した質の高い研究開発成果や活動状況などの提供</li> <li>地震時の早期復旧に資する情報などの情報発信基地</li> </ul>	
<b>5. 出版講習事業</b> ・ 実現研究開発成果などの社会への普及 ・ 初心者からエキスパート教育まで段階に応じた体系的な講習	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期刊行物、及び講演会、技術フォーラムなどの講演活動の内容の更なる充実</li> <li>鉄道技術講座などの講習会</li> </ul>	
<b>6. 診断指導事業</b> ・ 災害、事故、設備故障に関わる迅速な被害や原因の調査、復旧方法や再発防止対策等の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道事業者全般にわたる要請に対してきめ細かく積極的に対応</li> <li>激甚化する自然災害に対する分野横断的な対応</li> </ul>	 

<p><b>7. 国際規格事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の鉄道技術の維持・活性化とその海外展開に向けて、戦略的な国際標準化活動の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>I S O(国際標準化機構)及び I E C(国際電気標準会議)の国内審議団体としての積極的な活動</li> <li>国際的な鉄道関連団体が進める標準化活動に積極的に関与</li> <li>国内の技術・ノウハウの明文化や体系化、国内認証体制のあり方の検討等の諸課題に、規格開発と一体での取組</li> </ul>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>17 パートナリプで目標を達成しよう</p> 
<p><b>8. 資格認定事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道技術者の技術レベルの維持向上及び鉄道業界全体の人材育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道設計技士試験全般にわたる検証を通じて受験し易い環境の整備</li> </ul>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 
<p><b>9. 国際活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道技術の国際的プレゼンスの向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の大学や研究機関などとの共同研究や職員の派遣を拡充し、海外への情報発信の質及び量の向上</li> <li>鉄道総研が開発した技術の国際展開などを通して、日本の鉄道技術の普及に寄与</li> <li>鉄道事業者や鉄道関連企業などの海外展開</li> </ul>	<p>17 パートナリプで目標を達成しよう</p> 
<p><b>10. 働きがい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>能力を発揮でき、働きがいを持てる職場創り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人が貴重な人材であるとの認識に立ち、鉄道事業者のニーズに対応でき、グローバルな視点を有し、独創的な研究開発を推進できる研究者の育成</li> <li>職場の安全衛生、メンタルヘルス、働き方改革及び次世代育成支援等への取組</li> <li>様々な技術分野の研究者が世代の違いや立場の違いを超えて自由闊達に議論できる風通しのよい風土の醸成</li> </ul>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>8 働きがいも経済成長も</p> 

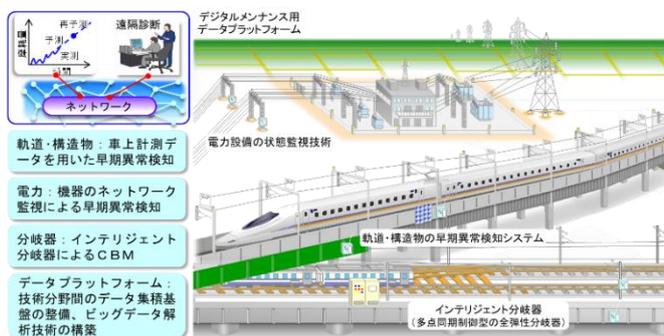


## 激甚化する気象災害に対する鉄道の強靱化

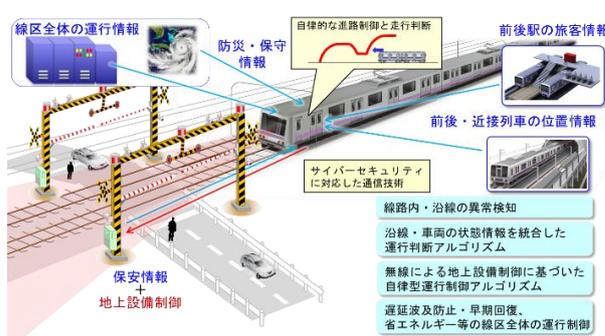
## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



鉄道総研は 持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています



## デジタルメンテナンスによる省力化



## 列車運行の自律化

図2 研究開発事業におけるSDGsの取組

以上